

CASE

2

本人の強い意欲と会社の柔軟な対応により、 配置転換をして復職が実現 株式会社サイゼリヤ

PROFILE

事業所 株式会社サイゼリヤ



所在地/
(本社)埼玉県吉川市
(本人勤務先)東京都中央区
事業概要/イタリアンレスト
ラン「サイゼリヤ」を国内・国
外に約860店舗展開。

本人



相馬 久弥さん
年齢/28歳 障害の程度/障害等級3級

これまでの経緯

2006年1月、視神経炎のため突然目が見えなくなる。治療により視力は徐々に回復し、現在は0.04程度。ただし、視野に欠損があり特に中心部分は見えない。
当時は店舗でアシスタントマネジャーをしていたが、12月に事務職として復職。復職後、大腿骨頭壊死による下肢障害となる。

復職までの道のり

突然の障害を受け入れ、復職をめざす

相馬久弥さんは、株式会社サイゼリヤに入社し、店舗でお客様と接する忙しい日々を過ごしていました。

2006年1月、突然高熱を発生し、1週間後に目が見えなくなりました。「視神経炎」という診断でした。入院して治療を続け、視力は少し回復したものの、視野の真ん中が見えない状態になりました。

4ヶ月ほどで退院し、人事を担当する織戸組織開発室長に復職について相談しました。白杖について、家族に付き添われて会社に来た相馬さんの姿を見たとき、「復職は難しいのではないかと」織戸室長は思ったそうです。

しかし、話をしていくうちに、相馬さんがサイゼリヤという会社がとても好きで、なんとしても仕事に戻りたいと思っている姿勢を強く感じました。企業として何ができるか考えたとき、店舗での勤務は困難でも事務職として職域を検討することはできると思い、相馬さんに、「一人で通勤できること」「パソコンのスキルを身につけること」を提示しました。このとき、休職期間を延長することも視野に入れたそうです。

歩行技術とパソコンのスキルを習得

相馬さんは、さっそく区役所に行きいろいろな情報を集めました。そして、東京都盲人福祉協会の協力を得て歩行訓練を行い、白杖を利用して一人で歩行する技術を習得しました。その後、日本盲人職能開発センターに通所し、パソコンの講習を受講することになりました。

3ヶ月後、相馬さんからの連絡を受けた織戸室長は、パソコンの受講状況を見学し、相馬さんが一人で通所している

ことやそれまで経験したことのないパソコンの基礎的なスキルを身につけたことに対し、その意欲と努力に感動したそうです。

織戸室長は、このとき初めて視覚障害者向けの就労支援機器を目にし、「パソコンが話している」と驚きを感じると共に、復職後のイメージを描くことができたそうです。

復職のための準備

会社に戻った織戸室長は、相馬さんの復職に向けて調整を始めました。まずは相馬さんの配属先と職務内容です。復職の時期と受け入れ態勢を考慮して人材開発部の採用担当としての職務を考えました。

これまでの仕事内容を一部組み替えて、定型的な職務を確保するようにしました。

CHECK!
IE P7 「相馬さんの主な職務内容」参照

職務内容を考える際には、日本盲人職能開発センターの職員の協力を得て、相馬さんのパソコンスキルの習得状況を把握し、検討を進めました。

また、必要な支援機器について検討し、「支援機器貸出し制度」や「障害者作業施設設置等助成金」を利用して、パソコン画面の文字を拡大するソフト、画面を読み上げるソフト、原稿を拡大する機器（拡大読書器）を整備し環境を整えました。

CHECK!
IE P49 「就労支援機器貸出し制度」
P56 障害者雇用納付金制度に基づく主な助成金「障害者作業施設設置等助成金」参照

柔軟な受け入れ態勢を検討

こうして、相馬さんは12月に人材開発部に復職しました。復職当初は通勤の負担を考慮して勤務開始時間を遅らせたり、短時間の勤務から始めて段階的に勤務時間を増やしていったり、パソコンスキルの定着を図るため、週に1度



レターガイドセット

日本盲人職能開発センターに通う時間を設定したりと、柔軟な対応をしていきました。

相馬さんは、現在、採用応募者の受付（メールや電話による対応）、会社説明会の準備、資料作成、データ管理、店舗との調整など採用に関わるあらゆる業務に対応しています。

支援機器のほかに、「青いのり（塗ったのりが見えやすい）」「太字のマジック」「レターガイドセット（溝があるので書く部分が見えやすい）」など仕事をしやすいものを自ら探し、周囲に伝えていきました。

相馬さんの上司である採用プロジェクトリーダーの久保聡志さんに、普段配慮していることを尋ねると、「特別に配慮していることはありませんが、強いて言うと、整理整頓には気をつけていますね。あるべきところに物がなくて、探すことに時間を費やすと、本人にとってもストレスになりますし、効率もサービスも低下しますから。あとは、ファイリングした書類のトップに拡大した見出しをつけて、見やすくするという事はしています。でも、彼にとって見やすいということは自分たちにとっても見やすく、仕事がしやすいことなんです」という答えが返ってきました。

久保さんの言葉からも、相馬さんの言葉からも、コミュニケーションがよくとれていることがわかります。



久保リーダー

今後に向けて



今後について、相馬さんは「今は採用に関わる仕事を中心に、重要な仕事であるとやりがいを感じていますが、今後も新しい知識を習得してできることを増やしていきたい」と考えています。

一方、織戸室長も「まだ若いので、経理やオフィスマネジャーなどに挑戦してほしいと思っています。そのためには、本人の



努力はもちろんですが、会社としてもどうすればできるのか考えていく必要があります」と話しています。

「仕事を続けるためにはどうしたらよいか」という視点で考え、周囲にも積極的に相談していく相馬さんの前向きな姿勢と、人を大切に、人を活かすという会社の理念が、キャリアアップにつながり、社内全体にもさらに良い効果を産み出すことでしょう。

相馬さんの主な職務内容

【新卒者の採用に関して】

- ・会社説明会資料の作成・準備
- ・会社説明会参加の受付
- ・グループ面談・一次面接・最終面接の受付、案内
- ・学生データの管理
- ・学生に対する社内報送付
- ・内定式、新人研修など内定者（新入社員）の集会における司会など

【アルバイト・パート採用に関して】

- ・サイゼリヤ全店舗のWeb応募者のデータ管理
- ・Web応募者が希望している店舗との連絡
- ・店舗に掲示している募集popの作成など

MESSAGE メッセージ

本人の強い意志と 人を活かす 企業の姿勢が重要



組織開発室長
織戸 実さん

相馬さんは、店舗で店長を目指し教育訓練をしているときに、突然目が見えなくなりました。店舗で働き続けることは困難なため、休職中に歩行技術とパソコンスキルを習得し、事務職として復職しました。現在は人材開発部に所属し、支援機器を活用しながら採用全般に関わる仕事をしています。

復職当初は、慣れない仕事でとまどいもありましたが、仕事をしやすい手順を考えたりツールを活用したりすることで、現在は充分力を発揮しています。

本人の強い意欲と、「どうすればできるか」という視点で、人を活かすしくみづくりを企業が考えることが大切だと感じています。

I 視覚障害者が活躍する職場

II 視覚障害者とは

III 職場における配慮事項

IV 視覚障害者に役立つ支援機器

V 視覚障害者のガイド（誘導）方法

VI 支援制度

VII 支援機関

VIII 統計資料